

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念とする日常五心や職員の誓い等を作成している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常五心や職員の誓い等ホールや玄関の掲示板に掲示しており職員が常に確認できるようにしている。1日1回確認する。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所者の家族や地域の方々の来荘にともない、見えやすい場所に理念を掲示している。契約書等にもとりいれている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開かれた施設に地域との交流機会を多く持ち気軽に立ち寄りしやすい環境作りに努めている。また、毎日数人のご近所の方が来られ利用者と一緒に時間をともに過ごしていただいている。職員には必ずご近所様に挨拶おこなうように徹底している。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事等積極的に参加し、久留米市の喉自慢大会など幅広く施設の広報に努めている。(よさこい踊り、地域夏祭り、小学校や保育園の運動会等)	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等でさまざまな情報提供を頂き、事業所で取り組んでいけるものは、積極的に支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員にケアサービスの質の向上に向けて全体で協議し組織体制を図っている。また、評価結果を全職員に閲覧し問題を洗い直し検討している。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催。施設の状況報告等を行い、地域の情報提供など頂いている。また、意見などを全体会議等で職員に報告し見直し、サービス向上の検討を行っている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	様々な自己研修など市町村担当者から提供して頂いたり、ケース困難者などは、必ず市町村担当者や包括支援センターと随時協議等行って解決の道を検討しあったりしている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在の所該当者はまだみられないが、該当者がでた場合は、早急にアドバイスできるように全体会議等で指導している。成年後見制度等内容を職員が理解できるように勉強会も行っている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全体会議や定例会等を通じ全職員に対し虐待の防止に努め、知識等も学ぶ機会を作っている。		

福岡県 グループホーム こころ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<input type="checkbox"/> 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、納得された上で氏名、捺印を頂いている。退所時にも事前にきちんと説明し同意を得ている。退所後も落ち着かれるまでは関わりをなくさず支援している。	
13	<input type="checkbox"/> 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、不満、苦情を聞いた職員は、必ず報告するよう周知徹底させている。また、今後は、久留米市の方針で第三者委員を設置し利用者の想いを表せる機会を設けている。	
14	<input type="checkbox"/> 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	出納状況を毎月、家族に報告し領収書を渡している。受診等健康状態に変化あればその都度家族に電話報告している。	
15	<input type="checkbox"/> 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付簿を設置し意見、不満、苦情などを表せるように努めている。また、ケアプラン作成時家族に対し収集している。	
16	<input type="checkbox"/> 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議、定例会、幹部会を設け職員の意見、提案を聞く機会を設けている。	
17	<input type="checkbox"/> 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員人数としては、基本の3:1を大幅に上回る職員体制(2ユニットで1日8名～9名)を配置しているため、個々の要望や、状況変化に柔軟な対応が出来るようにしている。	

福岡県 グループホーム こころ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	福利厚生の充実や、職員の都合等にも十分に配慮して最小限の離職者に抑えるように努力している。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	現在、男女職員の比率は半分であり、性別・年齢での判断は行っていない。社会参加もしてもらっている。		
20 ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の全体会議にて職員に人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		
21 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修に積極的に参加させ知識・技術の向上に努めている。また、研修の結果・内容の報告会を全職員に開催し検討している。		
22 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設とスポーツ大会を開催したり、行事等に招待することにより交流する機会をもうけている。その間情報提供等につとめている。		
23 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	他施設とスポーツ大会を開催したり、職員旅行、福利厚生の充実、職員の相談事の出来やすい体制をとっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働くように努めている	勤務集計表などを作成し、職員の勤務状況や実績等を把握している。また、積極的に研修参加や資格取得援助を行い向上心をもたせている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所する前に本人とお会いして本人の不安なこと、求めていることをよく聞きフェースシートに記入し職員に申し送りをしている		
26 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記同様、事前に話し合いの場を作り家族の要望を出来るだけ取り入れられるように努力している		
27 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	もし必要としているサービスが他の支援であれば他の関係機関に連絡、調整、紹介を行っている		
28 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所契約前に本人に施設見学をして頂き再度、家族と話し合っていただいている。又、本人が慣れるまでは家族に協力してもらい面会を多く来て頂いている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場における、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共同生活の場を活用し野菜作りや味付けなどの知識を教えて頂いたり、レクリエーションや一緒に食べる食事中の会話などで喜怒哀楽を共にしている		

福岡県 グループホーム こころ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年間行事に積極的に参加して頂き家族との交流を深めている		
31 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族の関係・現在の状況を考慮し家族との連絡調整などを行っている		
32 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や手紙を出したりドライブや病院受診時に自宅近辺を通って馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している		
33 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の席などを工夫したりレクリエーションや共同作業を通じて利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている		
34 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者がおられた場合には自宅訪問をしたり電話相談、情報提供などに取り組んでいる		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを通じて調査を行い本人の暮らし方の希望、意向の把握に努めている。又、困難な場合は家族に聞き取り調査などをし検討している		

福岡県 グループホーム こころ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は利用者一人一人の過去の生活歴や誇りに思ってきた経験等をよく把握しており、尊厳を支えたり日々のケアや暮らしに生かしている	○	利用者が安らぎを得るような馴染みの物が欠かせない事を家族に理解して貰い協力を求める働きかけをしていく
37 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は利用者1人1人の出来ること、そうでないことを理解して見守ったり手助けしたり一緒に行なうようにしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	第一月曜日は2ユニットの係長以上の会議。毎月十日は全体会議。更に全職員による介護経過についての会議を行なっている。チームケアの為の会議を重層的に開催し合意を図っている		
39 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは半年に一度の定期的な見直しと状態変化時の見直しを行なっている		
40 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録簿は項目など工夫して詳細な記録がある。又、家族の訪問時コミュニケーションをとり家族の要望を聞いて記録しそれをそれを介護計画に反映させている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お茶などを出して家族の来訪を歓迎している。又、宿泊希望家族の受け入れ体制も出来ている		

福岡県 グループホーム こころ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小中学校、老人会、婦人会、消防署、警察などへ理解と協力の働きかけを行なっている	
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジヤーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	実施していない	○ 地域のケアマネージャーや他の施設にいろいろ話を聞いたりサービス事業者とのコミュニケーションを行なってみたい
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者の生活の安定や広がりの為に周辺地域の諸施設から協力を得ることができるように理解を広げる働きかけをしている	
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の変化や異常発生時に気軽に相談出来る医療関係者を確保している	
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の状態によっては往診のかかりつけ医を決めたり一人一人に応じた医療機関を受診している	
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制を確保する共に、心身の状態や異常サインを早期発見し主治医に連絡報告行なっている	

福岡県 グループホーム こころ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	三日に一回、状態を把握しに行きソーシャルワーカーとの情報交換や相談に努めている		
49 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師から家族と共に早い段階で病状を詳しく説明を受け、職員でどのように接していくか常に話し合いを持ち、方向性を決めている		
50 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医と常に連絡を取り合い、現状把握し職員に周知徹底させチームとしての支援に取り組んでいる		
51 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時には数日前から各関係者との話し合いを十分に行なった上で本人家族に説明同意を得た上でダメージを防ぐ事に努めている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	定例会議、全体会議を通じて職員に個人情報の取り扱いや言葉かけや対応を常に見直ししている		

福岡県 グループホーム こころ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	献立作成にあたって食べたい物を聞いている。又、今何がしたいか書いて貰ったり聞き取りを行なって利用者の希望の表出の支援を行なっている		
54 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいかなど朝礼時などに尋ね希望に沿って支援している	常に本人のペースに合わせると共に、今日はどのように過ごしたいかなど朝礼時などに尋ね希望に沿って支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	パーマをかける人は美容院に行き他の人は月に1回地域の理容院に訪問してもらっている		
56 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決定する時など利用者にどのような食べ物を食べたいか？や野菜の皮むきなど協力していただき食後の食器洗いは職員が洗剤を付け利用者にすすぎを担当していただいている		
57 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者と一緒に買い物に行き好みのものを購入していただき日常的に楽しめるよう支援している		
58 ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し排泄の回数・量・パット使用などを記録し排泄パターンをつかみ支援している できる限りどんな状態の方でもトイレ誘導を行っている		

福岡県 グループホーム こころ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は希望を聞き、午前または午後それぞれゆっくり入れるように支援している。最低でも3日に1回は入浴支援をしているが拒否等などが見られた場合はその都度、清拭を行っている		
60 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握し夜眠れない利用者には話し相手になる等し安心して休息したり眠れるように支援している	○	医師と相談の上、眠剤を出来るだけ控え一日の生活リズムのなかで活動に気を配りながら安眠できるように支援する
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホール内で洗濯物たたみ、茶碗洗い、おしごり作り等の軽作業やレクレーション等の楽しみ事、ドライブや散歩、買い物等の楽しみごとを設けている。		
62 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的な金銭管理は職員が行っているが、買い物などの際にレジで支払いをして頂く機会も設けている。		
63 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に利用者が買い物にいける時間や機会を提供したり、受診の帰りなどにスーパーなどにより買い物をされる方もおられる。		
64 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないとこに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者が外出したいところの希望を聞き、日帰り温泉旅行や競艇、保育園の運動会などさまざまな場所に出かけられるように支援している。		

福岡県 グループホーム こころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をかけさせたり、手紙を書けるように便箋等を準備している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会に来て頂けるように特別面会の時間はきめていない。面会時には居室でゆっくりお茶をされる等して過ごされる。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	眠剤以外での身体拘束は見られていない。言葉の拘束や眠剤も拘束の範囲に入ると言う事を全スタッフに意識付けしている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や門など日中は鍵をかけず開放感が感じられ利用者が自由に外に出られるようにしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員の徹底した見守り強化を行っており、居室等で過ごされる方に関しては、1時間に1度はかならず訪室し声掛けがなっている。その状態をケース記録に記入している。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、刃物等を注意の必要な物品については、保管場所管理方法等を明確に取り決めその通り実行している。		

福岡県 グループホーム こころ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	応急処置等を定期的に消防訓練や医療関係より学び過去の事例や事故報告書等で再発防止に取り組み会議で職員に報告している。		
72 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時や事故発生のマニュアルを作成し職員に周知させている。消防訓練等を通じ心マッサージや応急処置についても勉強している。		
73 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回の消防訓練を実施。地域住民にも運営推進会議等で話を出し協力を得られるようにしている。		
74 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	常に利用者の状態の変化を報告し今後のリスク対応について職員が会議にて検討し家族に再度報告している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	夜間の巡回や日中目の届きにくい範囲でも異常時の早期発見できるよう注意して観察できている。異常の変化に気付いた際は、看護師への連絡が徹底できている。		
76 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が入居者1人1人の内服の種類・副作用が確認できるよう分りやすい場所に薬の説明を提示している。また、副作用などの認識確認のため、会議等を利用しスタッフに意識付けしている。		

福岡県 グループホーム こころ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	消化の良いメニューを作成し、牛乳も毎日飲んでいただいている。また、レクレーション等で体を動かす機会を作り便秘予防に努めている。		
78 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きをきちんと行って頂いている。また、週1回は義歯をポリデントにつけたりし、歯に異常がある方は往診で診でもらっている。		
79 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日ケース記録や熱計表などに食事摂取量を記入し状態把握に努めている。また、必要な方にはポカリスエットを自己購入して頂き水分補給に努めている。	○	各自のコップに水分量を記入し把握に努めていく。
80 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルがあり、感染予防のため、手洗いやうがいを確実に行っている。		
81 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の賞味期限を注意し、最高でも3日分の食材のみ購入している。台所や調理用具の担当を設けており衛星管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
82 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、地域に方が提供された花などをかざっており、庭にも花壇や畑をもうけて利用者とガーデニングを行って家庭的な雰囲気をだしている。		

福岡県 グループホーム こころ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下には利用者が手作りした飾り物や日常生活の雰囲気が家族にも分るように写真をはるなどの工夫をしている。		
84 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファーを設置し利用者が気軽に歓談できるスペースをもうけている。		
85 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に以前使用されていた家具や装飾品を持ってきていただき使用している。		
86 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気にも努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホールの天井が高く天窓が設置出来ているため、換気がしやすい。居室の換気もこまめにおこなうようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的に安全と自立を目指した設計がされているが、必要に応じて手すりを増設したり浴槽内に滑り止めを設置などしている。		
88 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ホーム内外に担当者が異常がないかチェックし利用者から訴えがあった場合はすぐに対応している。居室入り口には利用者希望の表札をかけており浴室やトイレにも目印をついている。		
89 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花壇と畑があり、利用者がガーデニングや野菜作りを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の
		<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		③利用者の1/3くらいの
		④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある
		②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
96	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
100	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域との交流、世代間交流を積極的に進め、併せて職員の活性化及び人間としての尊厳(全体の)に努めている